

令和6年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団体名	一般社団法人坊っちゃん劇場	
施設名	坊っちゃん劇場	
内定額	5,104	(千円)

1. 基礎データ

(1) 開館日数・事業本数・貸館日数

項 目		令和5年度	令和6年度
開館日数		239	211
年間事業本数（※1）	主催事業	15	23
	公演事業	3	3
	（内、本助成対象事業本数）	0	0
	人材養成事業	6	10
	（内、本助成対象事業本数）	0	0
	普及啓発事業	6	10
	（内、本助成対象事業本数）	0	10
	その他 内容： 記入してください	0	0
貸館日数	ホールごとの貸館日数	6	10
	ホール名： 坊っちゃん劇場 座席数： 450	6	10
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

(2) 施設利用者数・利用率

項 目		令和5年度	令和6年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	50,163	41,700
	公演事業	34,452	20,788
	人材養成事業	2,811	3,580
	普及啓発事業	12,900	17,332
	その他 内容： 記入してください		
	貸館事業入場者・参加者数	2,160	2,450
	その他 内容： 記入してください		
	計	52,323	44,150
施設の利用率(%)		68.4%	66.7%

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者数は除きます。

(3) 公演事業データ

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	入場者・参加者率	事業本数内訳						
						演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※4）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	3	164	34,452	46.7%	2	1	0	0	0	0	0
	共催・提携公演（※2）	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0	0
	貸館公演（※3）	6	6	2,160	80.0%	5	1	0	0	0	0	0
	計	9	170	36,612								
令和6年度	主催公演（※1）	3	137	20,788	33.7%	2	1	0	0	0	0	0
	共催・提携公演（※2）	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0	0
	貸館公演（※3）	10	10	2,450	54.4%	9	1	0	0	0	0	0
	計	13	147	23,238								

※1 名義主催は除きます。

※2 名義共催を含みます。

※3 「貸館公演」における「入場者・参加者数」及び「入場者・参加者率」は概算で構いません。

※4 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

2. 公演事業の実績記録と自己評価

(1) 各公演事業における 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標(値)

・ 令和6年度助成対象事業のうち公演事業について、助成対象事業ごとに自己評価を記入してください。

事業 番号	事業名	入場者数	入場 者率	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	備考
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							

3. 自己評価

評価項目①:創造性・企画性

評価の観点
・(企画力)地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・(制作力)優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・(発信力・影響力)圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・(レジデントカンパニー・アーティスト)当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- ・ 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら、事業類型ごとに自己評価を記入してください。

	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
公演事業						
人材養成事業						
普及啓発事業	・新規参加者数(アンケート調査)	アンケート回答者の80%以上が「初めての参加」と回答	(普-01)参加者数11,212人のうち9,547人が初めてミュージカルを観たと回答した。 (普-02)ワークショップ参加者12人のうち4人が初参加。観劇者620人のうち440人が初観劇と回答した。 (普-03)参加者202人全員が初参加。 (普-04)参加者303人全員が初参加。 (普-05)参加者2,000人全員が体験型観劇に初参加。 (普-06)参加者700人全員が舞台創作・上演に初参加。 (普-07)参加者46人全員が本事業に初参加。 (普-08)参加者159人のうち133人がミュージカル制作に初参加。 (普-10)参加者1,330人全員が初めてワークショップを体験した。	普及啓発事業の全体をとおして、80%以上が「初めての参加」を目標にしており、結果、86.8%の人が初めて舞台芸術に触れたり、演劇ワークショップに参加したという回答を得た。本補助金により地方においては、あまり実施されないワークショップや、子どもたちを対象とした演劇鑑賞、演劇創作体験事業を実施することができたことが大きな要因であると推測される。今後も継続して実施することにより、「初めての参加者」は数値的には減少するかもしれないが、より身近に舞台芸術に触れる機会が増加し、愛媛県の文化芸術の醸成に寄与すると考えられる。		

(2) 「創造性・企画性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

(普-03)受講者よりワークショップ後、「人前で自身を持って発言できるきっかけになった」、「相手との距離感を図るのが苦手だが、今後は努力してみたい」との感想が多く寄せられ、主催者からも「チームワークが養われ、活気が出てきた」などの評価をいただいた。 (普-06)本事業をきっかけに松野町に新たな町民劇団が発足し、3世代が集うコミュニティが創出できた。
--

評価項目②:国際性(任意)

評価の観点
・(国際プレゼンスの向上)海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流)アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組)在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 ・自由設定の観点(任意)

- (1) 令和6年度の自己評価
- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など

- (2) 「国際性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

評価項目③: 地域文化拠点機能

評価の観点
・(文化拠点)地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携)地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供)次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 ・ホール利用サービス(貸館事業)の向上 ※ ・自由設定の観点(任意)

※ ホール利用サービス(貸館事業)を行っていない場合は不要

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評定	所見	対応・追加情報など
連携する愛媛県内の文化施設数と対象事業参加者数(実地調査)	文化施設3施設(東予・中予・南予、各1施設)、参加者数240人	(普-02)愛媛県生涯学習センターと連携。来場者数620人 (普-07)愛媛県(東予・中予・南予地方)3施設と連携。参加者数46人	(普-07)事業を主眼に目標設定していたが、広報戦略が行き詰まり、参加者獲得に至らなかった。連携する施設においては、概ね予定どおりの施設と連携が図れたので、今後は周知、誘客に力を入れていきたい。		

(2) 「地域文化拠点機能」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

(普-07)本事業によって、舞台芸術に対する3つの地域の現状の違いや取り組みを明確に提示することができたことで、次年度以降、問題の共有や解決策の模索の場として愛媛県内の文化芸術団体のパイプ役を務めたい。

評価項目④: 多様性とアクセシビリティ

評価の観点
・(プログラムの多様さ)プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ)アーティストやスタッフとして参画する人々の属性(性別、年代、居住地、他)が多様である。 ・(アクセシビリティ)障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
小中学校、特別支援学校対象事業の参加率(実地調査)	対象となる事業で目標定員を上回る参加者を得る。	(普-01)目標値15,000人に対し、11,212人 (普-02)目標値1,600人に対し、1,196人 (普-04)目標値120人に対し、303人 (普-05)目標値2,000人に対し2,000人 (普-08)目標値800人に対し、159人 (普-10)目標値2750人に対し1,330人	全体目標として22,270人に対し、16,200人(72.7%)と届かなかった。 次年度は目標値の設定根拠の見直し、そこからニーズに応じた開催時期の選定や効果的な広報戦略を図りたい。		

(2) 「多様性とアクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

(普-01)愛媛県の歴史・文化・偉人などを掘り起こしたミュージカル作品を子どもたちが体験することにより、舞台芸術を観るという情操教育だけでなく、地域の歴史や風土に興味を持つ子どもたちが増えたという、ふるさと教育の観点からの評価も教育関係者からの感想をいただいている。
(普-02)従来、高齢者が気軽に舞台芸術に参加できる企画として、ワークショップや公演を実施してきたが、参加者の間で「近い将来、全国シニア演劇祭に出たい」との声が高まっており、本事業の発展が期待される。
(普-05)道後温泉をモチーフとしたイマーシブシアター(体験型演劇)にレジリエンス(適応力・自発的治癒力)向上の要素を持たせた公演を実施したことにより、旅行代理店などの観光産業にもアプローチすることができ、舞台芸術が観光産業に波及するきっかけを作ることができた。

評価項目⑤: 自由設定(任意)

①創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

評価の観点

- (1) 令和6年度の自己評価
- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など

評価項目⑥:運営体制と持続可能性

評価の観点		現状	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
「実現性」の評価項目より							
(ア)	(多様な財源の確保)予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	普及啓発事業の協賛金、2,400,000円	普及啓発事業の協賛金、5,906,000円	普及啓発事業の協賛金、5,906,000円	計画どおりの結果となった。今後も継続して事業の財源確保に努めたい。		
(イ)	(広報・営業力)広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。						
(ウ)	(他館連携)他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。						
(エ)	(設置者)円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。						
「持続可能性に関するチェックシート」より							
(オ)	(芸術監督)芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。						
(カ)	(長期的経営)長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。						
(キ)	(専門人材の確保)今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。						
(ク)	(職制の整理)芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。						
(ケ)	(世代間バランス)年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用に努めている)。						
(コ)	(ジェンダーバランス)女性管理職比率が30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。						
(サ)	(ワークライフ・バランス)仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。						
(シ)	(コンプライアンス順守)情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。	年1回、4月実施	年2回、4月・8月実施	年2回、6月・1月実施	実施時期の変更はあったが、概ね予定されていた研修は実施できた。		
(ス)	(ハラスメント防止対策)職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	年1回、4月実施	年2回、4月・8月実施	年2回、6月・1月実施	コンプライアンス研修と同時に実施。予定されていた研修を実施した。		
(セ)	(適正な契約事務)アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。						

4. 総評

・ 団体の自己評価

普及啓発事業においては、各施設、団体との協議の結果、実施日程が変更になった事業が幾つかあったが、全ての事業を実施し、実施回数も目標の91%を達成できた。
ただ、参加者数の目標23,410人に対して、17,418人(73.2%)と目標値に届いてないことから、今後は、行政や教育機関、社会福祉協議会、一般企業・団体との連携を更に広め、深める働きが必要であるとする。全ての事業をととして愛媛県内の子どもたちや高齢者、障がいを持つ方々に舞台芸術を届けられたことは一定の成果が得られたと考えられる。今後も継続して実施することにより、愛媛県の文化芸術の醸成に努めたい。

・ 所見

